

雜 報

會 員 動 靜

<p>鐵道醫 岩 崎 衛 二 <small>(六月二十日)</small> 年俸參千百圓下賜</p> <p>陸軍三等軍醫正八位 大 河 原 柳 司</p> <p>陸軍三等軍醫正八位 跡 部 鉄 朗</p> <p>永 山 太 郎 <small>(六月三十日)</small> 任陸軍二等軍醫</p> <p>陸軍二等軍醫 永 山 太 郎 <small>(六月三十日)</small> 補野砲兵第十聯隊附</p> <p>岡山醫科大學助教授 笠 井 經 夫</p> <p>岡山醫科大學助教授 北 山 加 一 郎 <small>(七月四日)</small> 陸叙高等官六等</p>	<p>岡山醫科大學助手 上 代 皓 三 任岡山醫科大學助教授 叙高等官七等</p> <p>岡山醫科大學助教授 上 代 皓 三 本俸十一級俸下賜 <small>(七月九日)</small> 職務俸金四百五十圓下賜 <small>(七月九日)</small></p> <p>京都帝國大學教授 小 南 又 一 郎 賜本俸六級俸 <small>(七月十三日)</small> 正四位勳四等 敷 波 重 次 郎 叙勳三等授瑞寶章 <small>(七月十八日)</small></p>
---	---

- 石田堅三郎君及武田俊光君 は豫て在外研究中なりしが本月上旬無事歸朝せられたり
- 寛 繁君 は今般東京市神田區駿河臺鈴木町に醫院を開設し公務の餘暇を以て内科の診療に従事せられたり
- 坪郷敏亮君 は豫て岡山醫科大學耳鼻咽喉科教室に於て研究し後今治市天心堂病院に勤務し居られしが今般山口縣宇部市西區上町六丁目に於て開業せられたり
- 佐藤鳴海君 は今般大阪市此花區櫻島町に移轉開業せられたり
- 諏訪壘一君 は今般從來の諏訪診療院を閉鎖し大阪市港區四條通二丁目大阪築港病院に於て診療に従事せられたり
- 伊藤幸憲君 は今般諏訪診療院を繼承し外科、泌尿器科の診療に従事せられたり、因に大阪築港病院は従前通り午前中外科を擔任せらる
- 長 直登君 は今般千葉縣船橋町五日市に轉居せられたり

川原敬雄君は 豫て大阪商船會社船醫として就職し居られしが去五月二十三日紅海に於て急死せられたりと洵に痛惜に堪へず謹みて弔意を表す

◎上代皓三君略歴 別項の如く今岡岡山醫科大學助教授に任ぜられたる上代皓三君の略歴は左の如し

大正四年九月第六高等學校第三部に入學し同七年七月卒業

同七年九月九州帝國大學醫科大學に入學し同十一年三月卒業

同十一年四月岡山醫科大學副手を囑託せられ第一内科教室勤務を命ぜらる

同十二年四月岡山醫科大學助手に任ぜられ醫化學教室勤務を命ぜられ今日に至る

◎**學位授與** 左記諸君は豫て論文を岡山醫科大學に提出し學位を請求し居られしが本年七月四日の教授會を通過し本月二十三日醫學博士の學位を授與せられたり其主論文及び參考論文は左の如し

藤 井 清 信 君

主 論 文

遺傳性眼畸形ノ發生原因

1. 家兎ニ見ラレタル遺傳性眼畸形ニ就テ (邦文)
(大正 15 年 11 月岡山醫學會雜誌第 442 號ニ掲載)
2. 畸形家兎眼ニ見タル神經組織ヨリ成ル硝子體內索條及ビ其發生機能ニ就テ (邦文)
(大正 15 年 9 月日本眼科學會雜誌第 30 卷第 9 號ニ掲載)

參考論文

1. 炎症性角膜槍狀體ノ成立機轉 (邦文)
(大正 15 年 3 月日本眼科學會雜誌第 30 卷第 3 號ニ掲載)
2. 角膜ノ假眠細胞ニ關スル實驗的研究 (邦文)
(大正 15 年 6 月岡山醫學會雜誌第 437 號ニ掲載)
3. 犬ニ見タル眼窩囊腫ヲ伴フ小眼球及ビ其發生ニ就テ (邦文)
(大正 15 年 10 月中央眼科醫報第 18 卷第 10 號ニ掲載)
4. 結節狀角膜變性症ニ就テ (邦文)
(大正 14 年 5 月岡山醫學會雜誌第 424 號ニ掲載)

細 川 隆 一 君

主 論 文

膽汁酸ノ生理的意義

- 其ノ一. 膽囊ニ於ケル膽汁酸ノ吸收及ビ膽汁酸ノ意義ニ就テ (獨文)
(大正 15 年 10 月岡山醫學會雜誌第 441 號ニ掲載)
- 其ノ二. 心臟機能ニ及ボス膽汁酸ノ意義 (獨文)
(昭和 2 年 5 月岡山醫學會雜誌第 448 號ニ掲載)

參考論文

1. 「アウクソウレアーゼ」ニ就キテ (獨文)
(1924 年獨國生化學雜誌 149 卷ニ掲載)
2. 肝臟ノ自家融解ニ及ボス膽汁酸ノ影響ニ就キテ (獨文)
(大正 15 年 5 月岡山醫學會雜誌第 436 號ニ掲載)

3. 海鰻(ハモ)及ビ眞鯛膽汁酸ニ就キテ (獨文) (岡山醫學會雜誌ニ發表ノ豫定)
4. 體內「ラヂューム」蓄積及ビ中間新陳代謝ニ及ボス「プロムラヂューム」ノ作用ニ就キテ(獨文)
(1925年獨國光線療法雜誌第19卷ニ掲載)

尾 藤 太 君

主 論 文

シュミット、ランテルマン氏割研究

- 其ノ一、シュミット、ランテルマン氏割ヲ充填スル物質ニ就キテ (獨文)
(大正15年7月フォリア、アナトミカ、ヤボニカ第4卷ニ掲載)
- 其ノ二、進入及及ビ外部ニ於ケル腦神經根ノ組織學補遺 (獨文)
(昭和2年2月岡山醫學會雜誌第445號ニ掲載)

參 考 論 文

1. ニツスル染色ノ一新法ニ就キテ (獨文)
(大正14年2月フォリア、アナトミカ、ヤボニカ第3卷ニ掲載)
2. 固定藥ノ作用ニ就テ (邦文)
(昭和元年12月岡山醫學會雜誌第443號ニ掲載)
3. マロリー氏染色ニ於ケル結締織及ビ平滑筋纖維ノ染色機轉ニ就テ (邦文)
(昭和2年1月岡山醫學會雜誌第444號ニ掲載)
4. 數種ノ固定及ビ染色法ノ比較ニ就テ (上坂熊勝, 尾藤太共著) (獨文)
(大正13年10月フォリア、アナトミカ、ヤボニカ第2卷ニ掲載)

高 橋 昌 夫 君

主 論 文

- 「カルチウム」ノ子宮ニ對スル藥物學的作用竝ニ「カルチウム」ノ「アドレナリン」及ビ「ピツイトリン」
作用ニ及ボス影響 (邦文)
(昭和2年4月岡山醫學會雜誌第39年第4號ニ掲載)

參 考 論 文

1. 「アリアルテオプロミン」ノ藥物學的作用ニ就テ (邦文)
(大正14年5月岡山醫學會雜誌第425號ニ掲載)
2. 「キサンチン」誘導體ノ青蛙及ビ赤蛙ニ於ケル筋作用ノ差異竝ニ諸種「キサンチン」誘導體ノ筋
作用ノ比較ニ就テ (獨文)
(大正14年10月岡山醫學會雜誌第429號ニ掲載)
3. 諸種吸着相ニ由ル毒物吸着ノ生物學的研究 (英文)
(大正15年6月岡山醫學會雜誌第437號ニ掲載)
4. 膽汁酸及ビ膽汁ノ藥物學的研究 (邦文)
(大正15年9月岡山醫學會雜誌第440號ニ掲載)
5. 「カルチウム」ノ體溫ニ及ボス影響竝ニ體溫ニ作用ヲ及ボス二三藥物ニ對スル「カルチウム」ノ
影響 (邦文)
(昭和2年6月岡山醫學會雜誌第39年第6號ニ掲載)
6. 哺乳動物摘出小腸及ビ大腸ノ二三毒物ニ對スル反應ノ差異ニ就テ (邦文)
(昭和2年7月岡山醫學會雜誌第450號ニ掲載)
7. 吸着相ニ由ル毒物吸着ノ生物學的研究追補 (邦文)

上 代 皓 三 君

主 論 文

細菌作用ニヨル「ヒヨール」酸ノ分解及ビ「ヒヨール」酸ノ化學的構造ニ就テ (獨文)
(大正14年生理化學雜誌第145卷ニ掲載)

参 考 論 文

1. 膽汁酸ト「アルデヒド」體トノ縮合ニ就テ (獨文)
(昭和2年外字生化學雜誌第7卷ニ掲載)
2. 膽汁酸ノ家兎蛋白新陳代謝ニ及ボス影響竝ニ腸内醱酵腐敗作用ニ及ボス影響ニ就テ (獨文)
3. 膽汁酸ト枯草菌ニヨル「グリセリン」醱酵ニ就テ (獨文)
(昭和元年12月岡山醫學會雜誌第443號ニ掲載)
4. 「デブオキシピリアン」酸及ビ「ヒヨロイダシ」酸ノ生成補遺 (獨文)
(大正14年外字生化學雜誌第5卷ニ掲載)

◎岡山醫學會通常會 本年八月分通常會は暑中に付休會

◎ 國民生理學 第四回夏期講習會
研究會主催

講習題目	「脈管系の解剖, 組織, 生理, 衛生, 疾病」		
演題及講師	脈管系の生理 血清と法醫學 脈管系の疾病, 衛生 淋巴管の組織及解剖 脈管系の組織及解剖	京大教授 醫學博士 京大教授 醫學博士 京醫大教授 醫學博士 京大教授 醫學博士 醫學士	石川日出鶴丸 小南又一郎 飯塚直彦 木原卓三郎 笹川久吾
特別講演	神經興奮傳道學說に就て 我國人口食糧問題の解決の鍵	京大教授 醫學博士 京大教授 農學博士	石川日出鶴丸 近藤金助
實驗及標本供覽	動脈血壓描記實驗 人體脈波曲線描記 人體血壓測定法 冠狀動脈灌流實驗 動物脈管系標本供覽	(笹川, 巴陵兩學士擔當) (同) (同) (同) (會我研究所長擔當)	
會期	八月二日—八日(一週間)		
申込期日	七月三十日限り		
申込所	京都帝國大學醫學部生理學教室内 國民生理學研究會		

◎ 新 刊 紹 介

倉敷中央病院年報 第1號(大正15年度)發刊セラレ, 患者ノ統計ヲ擧ゲ, 同院ノ業績數編ヲ載セタリ. 醫學者ノ好參考タリト信ズ.

慶應「レントゲン」叢書 藤浪剛一氏主幹タル同書ハ今回第3卷ヲ寄セラル. Yoshū 氏著肺膿瘍及ビ其偶發症ニ對スル「レントゲン」診査竝ニ膽囊疾患ニ對スル「レントゲン」診斷法ニ就テノ論文2篇(共ニ歐文)ヲ掲載セラル. 廣汎ナル研究ナリ.